

論 文

退院後の確実な服薬自己管理を行なうための指導

— 分包指導グループと教育指導併用グループを比較して —

寺本キミ子・京道美里緒・当間 一美・中川 正美・竹内 恵
橋本 安世・向田 紀子・大塚 裕美・吉野由喜子
(金沢市立病院)

Instructions for self-medication

— Result of the additional teaching the disease characteristics
and drugs effect —

Kimiko Teramoto, Misao Kyodo, Kazumi Toma, Masami Nakagawa,
Megumi Takeuchi, Yasuyo Hashimoto, Noriko Mukaida,
Hiromi Otsuka and Yukiko Yoshino
Kanazawa City Hospital

要 旨

内科慢性疾患患者にとって、内服治療は欠かせないものであり、内服自己管理の確立は疾病コントロールに重要な意義をもつ。今回退院後の生活環境が変化しても、医師の指示通りに（錠剤数を合せ残薬がない）内服できることを自己管理能力とし、入院中より内服および疾患指導を受けた患者は、自己管理能力が高まると仮定した。

内科に入院中の呼吸器患者と循環器患者を年齢、性別、疾患の重症度においてマッチドペアとし、無作為に2つのグループに分け、分包指導グループと教育指導併用グループとし、異なる指導を行なった。2グループとも退院後の初回外来通院時に残薬確認と内服状況を調査した。その結果、予想に反し2つのグループに自己管理能力の差を認めることはできなかったが、年齢に応じた指導方法を導きだすことができたのでここに報告する。